

1. 禁止・推奨などの言葉の使い方について

Japan Juggling Festival 2022 (以下JJF) 参加の前に、参加者はこのガイドラインを通読してください。なお、ここで、「**禁止**」「**必ず**」と記載された内容は参加に必須のルールです。これに反した場合にはスタッフからの注意、従えない場合には退出いただく可能性があります。また、「推奨」「なるべく〇〇しないする」という記載は、その行為の危険性/有効性を知識として持ったうえで、参加者個人で行うか判断してください。

例1) 道具を啜る技は禁止とします。

規則として「道具を啜る技は禁止」で、体育館で行ってはいけません。道具を啜えているのを確認した場合、スタッフからやめるよう注意をし、従えない場合には退出をお願いすることがあります。

例2) 顔を使った技は避けるよう推奨します。

当ガイドラインでは「道具が顔に触れる技は接触感染のリスクを高めるので、行わない方がよい」という考え方を提示します。そのうえで、例えば「リスクは高くても自分にとって重要な技なので、技の前後に道具を消毒することでリスクを低めたいうで練習はする」という判断も、「高齢の同居家族のために感染のリスクは極力下げたいので、顔に触れる技は練習しない」という判断も、許容されます。

2. 参加者が参加前に注意すべきこと

①必要に応じて自主的に参加を見合わせることを。

以下の事項に該当する場合は、秘匿して参加することを禁止します。

ア 体調がよくない場合

イ 同居家族や身近な知人に感染や濃厚接触が疑われる方がいる場合

ウ 外国から日本に入国し、隔離期間にある場合

なお、検疫は、出国する国・地域によって異なります。厚生労働省・入国者健康管理センターのホームページを確認し、隔離期間に応じた日程調整をお願いします。(https://www.hco.mhlw.go.jp/)

②ワクチン接種

事前にワクチン接種が可能な状況にある参加者は可能な限り接種することを推奨します。

3. 参加者が開催中に注意すべきこと

①ジャグリングの内容に配慮し感染のリスクとなる技は避けること。

一般に、ジャグリングイベントにおいて、道具、手、床面は汚染される可能性があり、接触感染対策に留意する必要があります。

ア)道具が顔に触れないようにすること。

道具が顔に触れる事は接触感染のリスクになると考えられます。**イーティングや道具を啜る技など直接粘膜へ接触する技は禁止とします。**ストールやバランス、その他の技について、顔を使ったものは避けるよう推奨します。個々の技について規定することは困難ですが、マスクやフェイスシールドをしたままできない技は避けるべきであることを一つの目安とします。

イ)道具の共用をなるべくしないこと。

複数人での技や道具の共用は接触感染のリスクとなります。パッシングは避けることを推奨します。パッシングは汚染物→手→道具→手→ジャグラーの粘膜という順の接触感染の原因になる可能性があります。行う場合、パッシング中に顔を触らない、パッシング前後には手洗い又は手指消毒、道具の消毒・除菌をするなどが有効と考えられます。道具の貸し借りは避けることを推奨します。貸し借りする場合にはパッシングと同様の配慮が必要になります。スティールはジャグラー同士の距離が非常に近いため、飛沫感染対策の面からもリスクが高いと想定されます。スティールは行わないことを推奨します。また、特に**向かい合って行うスティールは禁止とします。**出展等でも道具の共用が行われます。試用の前後に手指消毒をする、試用に用いられる道具は定期的に消毒するなどの配慮を要し、出展者がこれらの対策を管理してください。

ウ)ドロップした道具を拾う際に配慮をすること。

ドロップした道具が使用者から離れていく場合、拾いに行く過程でソーシャルディスタンスが保てなくなる可能性、他の参加者にぶつかるまたは拾われる可能性があります。ドロップした道具はなるべく自分で拾うこと、ドロップした道具が飛散しないようジャグリングする際の向きや位置に注意することが必要です。

②マスクを装着すること。

参加中は飛沫を飛ばさないように、**室内では必ずマスクを装着してください。**マスク・シールド等については、飛沫やエアロゾルの飛散を防止する性能の高い順にN95≧KN95≧DS2>不織布マスク>布マスク>ウレタンマスク>フェイスシールド・マウスシールドと考えられます。フェイスシールド・マウスシールドは、マスクに比べて飛沫やエアロゾルの漏れが比較的多いため、特別な事情によりマスクの装着が困難な場合には、フェイスシールド等で代替することが考えられます。また、DS2マスク等で排気弁付きのものは、着用者の呼気がフィルターを通さず外部に排気されるため、イベント内における感染予防効果は低いです。**排気弁付きのマスクは禁止とします。**

ただし、マスクを着用して運動すると十分な呼吸ができず人体に影響を及ぼす可能性があります。また、マスクは熱中症のリスクを上げる可能性があります。平時以上に休憩を取る、水分補給を行うなど体調管理に十分に注意してください。また、**N95マスクを着用して運動することは禁止とします。**

③手洗いを十分に行うこと。

手指衛生は感染防止に非常に有効です。入退場の際、休憩の前、その他汚染された可能性のある時には手洗いを行うことを推奨します。

④参加者同士の間隔を開けること。

飛沫が飛散する距離は1~2mとされます。参加者同士は2m以上、最低1m離れてください。(障がい者の誘導や介助を行う場合を除きます。)ワークショップやジャグリングゲーム、練習または披露する技の内容も密集するものはできる限り避けることを推奨します。

⑤大声を出さないこと。

大きな声を出すことは飛沫の飛散のみならず、より感染リスクの高いエアロゾル発生のリスクとなります。**必要以上に大きな声を出すことは禁止とします。**

⑥タオルを共有しないこと。

スポーツに伴い汗をかきますが、汗は一般に感染性はないものとして扱われます。ただし、汗を拭う際に目・鼻・口に触ることは感染の原因になる可能性があります。ジャグリング中の手指は汚染されることが多いので、直接顔に触れないよう注意し、顔の汗を拭う際にはなるべく清潔なティッシュを使うなど、直接触れないようにすることが有効です。タオルの共有はせず、使い捨てのペーパータオルや個人用のタオル利用してください。

⑦イベント外でも良識ある行動をすること。

大人数での会食はなるべく避けてください。宿泊はなるべく個室にし、十分に感染対策のされた施設を選ぶようにしてください。その他人込みに行かない、イベント外でも適切にマスクを着用するなど、良識ある行動を求めます。COCOAの使用を推奨します。自治体ごとに会食の自粛などが発表されている可能性があり、よく確認しそれに従ってください。

⑧顔を触らないこと。

手指衛生を徹底しても、ジャグリング中には手指は汚染される可能性が高いです。顔(特に目、鼻、口)には**直接触らないようにしてください。**清潔なタオルやティッシュ越しに触る、やむを得ず直接触る場合には手を洗った直後にするなど比較的安全です。

⑨ジャグリング道具の消毒、清掃を行うこと。

ジャグリング道具は接触感染の原因となる可能性があります。**必ず入場前、退場後には道具を消毒または清掃してください。**消毒薬を用いる必要は必ずしもなく、掃除用雑貨で有効なものがあります。詳細はジャグリングイベントにおける新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン3(5)②および(参考1)を参照してください。素材や技の特性によって事情が異なるので、細かな方法については指定しません。入場前、退場後の他に、道具の共用前、共用後、その他汚染されたと思われるタイミングに消毒や清掃を行うことが推奨されます。

⑩合理的配慮

合理的配慮のため一部の感染対策が行えない場合には、代替となる感染対策を十分に行うことを推奨します。例)唇の動きを見る必要がある聴覚障害のある方に対して、介助をする方がマスクを着用するとコミュニケーションに支障をきたす可能性があります。マスクをしないだけでなく代わりにフェイスシールドを着用する。

⑪チャンピオンシップ、ゲストステージでも指示に従うこと。

待機列での十分な間隔の確保、場内での会話をなるべく控える事、分散退場など、係員の指示に従ってください。**出場者・出演者との面会・出待ち・差し入れは禁止**とします。

⑩食事に関するルールに従うこと

会場内での飲食が許可される場所は、スポーツ棟第1・第2体育館前ソファ、カルチャー棟ホワイエです。本年は**体育館内での飲食は水分補給を含め禁止とします**。飲食中は会話をせず、**会話をする場合には飲食をやめて必ずマスクをつけてください**。外食をする際も大勢での会食をせず、会話をするときはマスクをするよう推奨します。

4. 参加者が開催後に注意すべきこと

参加者は、**参加前に感染が疑われる方と接触していたことが判明した場合や、参加後2週間以内に体調に異変があった場合には必ず開催者に連絡してください**。もし、参加者に感染が疑われた場合、実行委員会は該当する自治体のコールセンター等に連絡し、指示に従います。**JJF開催後に実行委員会から連絡があった場合必ず指示に従ってください**。